

令和元年度 特別支援教育セミナー

8月2日（金）、シーパル大船渡を会場に特別支援教育セミナーを行いました。

全体会では、「支援体制について」をテーマに、サポートファイル「つむぎ」の活用や見直しについて、小学校や中学校での校内支援の実践事例や「特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制」などについての発表があり、就学前からのそれぞれのライフステージにおいた支援のあり方を学ぶことができました。



感想（アンケートより）

- ・子どもの状況に合わせて適切な支援をしていくことの大切さを感じた。
- ・校内で共通理解を図りながら支援できるような体制を整えたい。
- ・切れ目のない支援のあり方、保護者との共通理解、関係機関との連携など多くのことを学ぶことができた。

さらに、その後の分科会は以下の4つのテーマに分かれて講義、グループワークなどを行いました。どの分科会も活発に質問や意見が出され、校種を超えて話し合いを深めることができました。

〈第1分科会 自己肯定感に視点を当てた支援方法〉

〈アンケートより〉



・「自己肯定感の低下を防ぐ」ことについていろいろ考えることができた。今後、声かけする時に留意していきたい。

- ・楽しみながら参加していくうちに自己肯定感を高めていけるのは大人も同じだと思う。2学期から何か楽しいと思えることをやってみようという元気をいただいた。

〈第2分科会 将来を見通した進路指導〉

〈アンケートより〉



- ・進路選択の際の留意点を知ることができた。
- ・「見る」「体験する」「自己理解の心を育てる」「将来（就労）までのイメージを本人、保護者が持つ」等様々なことを教えていただいた。

〈第3分科会 WISC-IVを活用した支援方法〉

〈アンケートより〉



- ・検査結果からどのように支援の仕方を考えていけばよいか担任をしている児童のことを思い浮かべながら考えることができた。

- ・WISCのそれぞれの指標が深い意味をもつということがわかった。

〈第4分科会 通常学級での支援と合理的配慮〉

〈アンケートより〉



- ・具体例について、どう支援、どんな配慮をするのかグループで演習を行い、交流したことによっていろいろな方法があることを初めて知った。校内でも共有していきたい。
- ・担任だけでなくたくさんの方や子どもたちの協力を得ながら支援をしていきたいと思う。